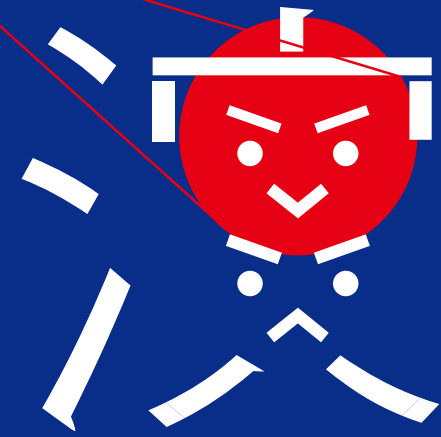


能と現代演劇のあわい



sapporo education and culture hall news
Raku



【能楽なう】

能/金春流 葛城大和舞 狂言/大蔵流 左近三郎 能/金剛流 雷電



2019年9月4日[水] 18:30開演 / 17:45開場

(※)「能楽なう」特設サイト

宇高竜成さん(金剛流シテ方)と、中村昌弘さん(金春流シテ方)が、各演目を選んだ理由や見所を語っています。要チェック!

能楽なう 検索

能楽

能楽と現代演劇は、全くの別物? いやいや、何だか同じところもあるような…。両方の観劇がさらに楽しくなるような見方を探るべく、能楽師の宇高竜成さん(金剛流シテ方)にお話を伺いました。

現代演劇

能と現代演劇のあわい

「特集」金剛流能楽師・宇高竜成インタビュー

能と演劇。どちらも札幌市教育文化会館に馴染み深いジャンルですが、片方のファンからすると、一方が何となく別世界に感じられるかもしれません。でも、能に現代の演劇作品と共通する面白さを発見したり、演劇作品に能と通ずる何かを感じたりできたら、舞台鑑賞がもっと楽しくなるはず。そこで、「教文演劇フェスティバル2019短編演劇祭」と「能楽なう」が連続開催されるこの機会に、能と現代演劇が重なり合う「間(あわい)」を探ってみることにしました。お話を伺ったのは、他ジャンルとのコラボレーションを積極的にされていて、能楽なうにも出演する宇高竜成さん(金剛流シテ方)。ぜひ演劇祭と能楽なうの両方を観劇してみてくださいね!

演劇、音楽、ダンスというフィルターを通して能を見てみると…? 現在、フランス人演出家による演劇作品制作中です。『L'Expérience de l'Arbre / 木の体験』という作品で、11月にフランスで初演を迎えます。僕は能楽師・宇高竜成という役で出演しております。劇中お能も演じますが、シーンが進むにつれ、実は自分は竜成ではなく幽霊だったというように展開していくお話です。今回、自分としては作品をゼロからつくる体験が新鮮でした。お能って、台本と演出は「型」としてとつくの昔にできていて、それをライブのものにするために足りない部分

を現代の能楽師が補っていくのですが、現代演劇のクリエイションはそうではないんだなと。お能の場合はトライ&エラーをずっと繰り返した結果の最大公約数として、一番良い型が残ってきていると思うんですけど、ゼロからつくる現代演劇の場合は、2週間かけてつくったシーンがポツになったりもする。それはすごく大変な作業だと改めて感じました。2011年には舞踊家とのコラボレーション作品も発表しています。演劇も含め他ジャンルとのコラボレーションを通して、感じることもありますが、どうですか? 以前舞踏ワークショップを受けたときに、上半身を捻る動きが自分の

中になんか気づく、ということがありました。僕らの身体表現って、着物を着た状態に特化しているんですよ。それゆえ独特の動きになっていて、その身体表現には、やっぱり和歌や漢詩をベースにした、お能で培われた歌が一番合う。お能が持つてしまったスタイルは切り崩すことができないもので、そのスタイルにメリットもデメリットもあるけれど、コラボレーションをすればするほど、能が何かと混じることは絶対ないなと思います。 「能楽なう」特設サイト(※)内の「能楽師を志したきっかけ」ところで、10代の頃に能楽師の修業と並行してバンド活動をしたり、大学時代にコーポリアルマイムという身体表

現に触れたことで、能の魅力に気づいたと話されていて印象的でした。 「能は能として見なければいけない」という思い込みがポーンと外れて、「音楽というフィルターで見てもいいし、身体表現として見てもいいんだ」と思ったことで、やっとお能が面白くなりました。ただ、ダンス、歌、音楽、演劇というそれぞれのフィルターを通してお能を見ることはできても、そこからぼれていくものもまた、たくさんあるのだということもよくわかりました。「こうやっていろいろなものがかくついているから、お能なんだな」と、今ではよく理解できるようになってきたかな。

出す。そうすると、「次の動きをゆつくりしようとしているな」と囃子方に伝わります。そこで「ダメ」となる囃子方と、「いいよ」となる囃子方がいるのですが(笑)。なので、やってみたいとわからないんですよ。そういう自由な即興の部分もあついつ、動かしてはいけない普遍的な範囲というのがあります。 囃子方がそこを判断するんですね。 囃子方がある意味、時間や空間を司る要素なのだと思います。シテと言われる主役も多分一つの要素でしかなく、全部がそれぞれの歯車で動いている感じです。 「人はなぜ生まれて、なぜ死ぬのか」突き詰めた、能の世界観。 能における幽霊の意味について伺いたいです。 お能の根底には、「一期一会」というコンセプトがあります。何回も繰り返されている虚像が舞台上にあるのではなく、その時舞台上で本当に起こっている出来事という風に演出しようとしているんですね。だから連続公演もしませんし、お客さんに対して礼をしないのも、演者が出てきた時に拍手が起らないのも、そういった理由からです。スクランブル交差点でのフラッシュモブのように、舞台上にザッと人が出てきて、物語が語られ、ザッと消えていく。そこにリアリティを持たせるため、演

劇でありながら、人間の身体や仮面が、死者を死後の世界から引つ張り出すための依代であるという儀式的な要素も含んでいます。主人公がリアリティを持って舞台に立つために、幽霊である方が良いというか。ただ、主人公が実在する人物として登場する「現在もの」という能もあります。 出来事としてリアリティを持たせるための幽霊なんですね。 幽霊が語る「自分が生きていた時の気持ち」や「あの時のことが忘れられない」というような言葉は、今生きている人に対して発せられている。思いを残してこの世を去つたけれども、死んで終わりではなく、再び生きていた時のことを思いながら「そこ」にすることが可能。「人間には、生を終えた後もおさらいをする時間が与えられている」。そう思えるお能の世界観が好きです。 「土蜘蛛」に出てくる土蜘蛛の精のような、人間じゃない異界のもの

についてはどうですか? 土蜘蛛や「鞍馬天狗」の天狗、「紅葉狩」に出てくる戸隠山の鬼など、実は全部人間なんです。大和朝廷に反逆する土蜘蛛一族という異民族であつたり、天狗と言われるアニミズムを信仰している先住民だったり。戸隠山の鬼も朝廷に刃向かった人たちで、それらをファンタジーの世界に置き換えてつくっている。勧善懲悪の物語に見せつつ、実は朝廷に虐げられた人たちの記憶を残している。僕はそういう見方をしています。のですが、お能の中に登場するこれらの虐げられた人たちは、逆にすごく魅力的でもあります。突き詰める、お能のメインテーマは、「人はなぜ生まれて、なぜ死ぬのか」。それを日々舞台上で表現しているだけに、ふと目にする風景の美しさなどに、いろいろ思うことがあるというか、日常のちょっとした瞬間、今自分が住んでいる世界の魅力を改めて感じられるような世界観を、お能は持っているんじゃないかと思えます。

Profile of Ryusei Takahashi (宇高 竜成), a Noh musician from the Kanagawa-ryu. Includes a photo, a QR code linking to his YouTube channel, and text about his background and work.

井上悠介さん(きつとろんどん)から指名

【プロフィール】

赤谷 翔次郎

Shojiro Akatani

パインソー所属。パインソーの母体である株式会社パイロンのデザイナーとしても活動。客演として劇団イナダ組、NEXTAGEなど多数出演。昨年は2.5次元舞台「モブサイコ100〜裏対裏〜」に出演。実は札幌演劇のサラブレッドである(父は「劇団にれ」母は「劇団新劇場」に所属していた)



【次回出演情報】

Takayuki Suzui Project

Vol.5 OOPARTS

『リ・リ・リストラ〜

仁義ある戦い・ハンバーガー代理戦争』

○札幌公演

2019年9月13日(金)~2019年9月15日(日)

道新ホール(札幌市中央区大通西3丁目 道新ビル大通館8階)

※東京公演と大阪公演については、こちらをご覧ください。http://ooparts-hokkaido.net/

今年4月に上演されたBLOCHプロデュース『アニメ』で演出を手掛けた赤谷翔次郎さん。商業演劇など東京の現場での体験を踏まえて、札幌の演劇環境の変革を試みる彼の目指すものとは？

少し前のブログで、2014年の短編演劇祭で優勝し(※星くずロンリネスの「キンチョー」に出演)、道外に行ったことが転機だったと振り返っていましたね。

その時期は優勝特典で神奈川と名古屋に行ったことに加えて、パインソーも東京で初公演をしたんです。それを機に「本当に俺、演劇でやっていくんだな」と思っただけで、3年は東京で客演する機会も増えて、さらに感覚が変わりました。昨年出演した2.5次元舞台では、シーンごとの稽古スケジュールが15分単位で決まっていた。僕が経験した札幌の現場では、日程は決まっているけど、いざ稽古に来たらほとんど自分の出番がなかった。なんてことも起こるわけですが、まずそこから変えたくて、『アニメ』ではシーンごとの稽古スケジュールを作りました。こうすると、役者は週2回くらい参加で済むので負担が少ない。その代わり遅刻は厳禁、セリフも覚えてくることを徹底しました。売りたいと思うならこおいうところから意識を変えていこうって。

「売れる」というのは演劇で？最終的にはそうですね。そ

の一步手前の目標として、何かしらの表現でお金を得られるようになること。徹底的に鍛錬して芝居に向き合い、それによって役者が広く認知されるようになれば、「あの面白いから、ラジオやってみようか」という風にならなくていいかもしれない。ナレーションの仕事は僕も結構していますし、今は芝居関連のことも仕事としてできる環境になったので、かなり動きやすくなりました。収入源の全てがアルバイトという状況から、その2/3くらいはやりたいことでお金を得ているという演劇人をもっと増やしたいです。

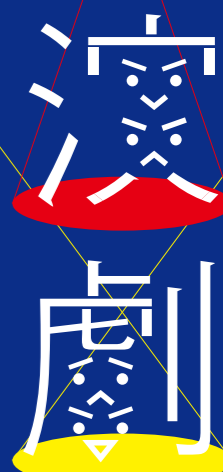
今後の展望について教えてください。

僕が演劇を始めた10年前と比べて、今は札幌演劇シーズンもあり、札幌の演劇は盛り上がりつつあると思います。東京で上演する劇団も増えましたが、自分の演劇環境も良くなったので、これを生かしながら札幌の演劇シーンをさらに良くしていきたい。まずは大きい会場での公演ができるようになりたいですね。東京の劇団が道新ホールを使っているのに札幌の劇団が使わないのって悔しい。道新ホールを使ってほしい。昔道新ホールに勝てない。僕はOOPARTSの公演で「道新ホールに勝つ」という役者としての夢を叶えるので、その後みんなで続こうって思っています。次の一手も考えているので、楽しみにしてください！

パインソー
赤谷 翔次郎

目指すのは、演劇で食える未来。

演劇のわ
さっぽろ



激戦必至の短編演劇祭。
勝敗の行方は…？

台本審査で選ばれた4団体と前年度の優勝団体が20分間の短編作品を発表し、審査員と観客が投票によって勝敗を決める、ガチンコ演劇バトル「短編演劇祭」。今年の参加作品の見どころを、教文演劇フェスティバル委員長 齊藤雅彰さんのコメントとともにご紹介！

まずはGフランケン(札幌)。「彼らの魅力は突っ切った勢い。主人公が何らかの現象にはまっつて、際限なく振り回される面白さを今回も存分に味わえそう」。宇宙空地(名古屋)は「TGR 2018で優秀賞を獲った実力派。夫婦の話だけど、彼らならではの見せ方があるって、そこが大きなポイント。強敵です」。お次はマイペース(札幌)。「八十嶋君(作・演出)は人間関係の機微を描くのが得意で、誰もが思わず身にしみる話をひねって見せてくる。その辺に注目」とのこと。最後はMike堂(金沢)。「裸の登場人物をどのように演出してやるのか。日本の舞台表現における裸体の扱いへの問いかけにもつながりそうな、良い意味での問題作。そんな強者たちを迎え撃つのは、2017年度王者の星くずロンリネス。「2年越しで、どんな作品をつくってくるのか期待大」と齊藤さん。ぜひ大ホールで勝敗の行方を見撃してください！

教文短編演劇祭2019 参加劇団

教文短編演劇祭2017 チャンピオン

星くずロンリネス

【札幌】





去年の災害を経て感じた地域のつながりや街のパワーに、「やっぱり札幌が大好きだ」と強く思いました。そしてこの一年、札幌で芝居をする意味を考え続けました。ローカルでも面白いじゃなく、ローカルだから面白いを目指し、皆さんに楽しんでもらえる作品をつくります！応援よろしくお願いします！



ヒーローシショウ 作・演出：上田 龍成

農業が盛んな「島熊市」の市長は気弱な男。就任後、初の夏祭り。島熊のご当地ヒーロー「シマクマン」のショーを市民は楽しみに待っている。「…え？俺が入るの？」突如、ヒーローになった気弱な市長は、自分で考えたゆるキャラの力を借りて街のPRができるのか?! 星くずロンリネスによる、まちのコミカルヒーローショー!

台本審査によって選出された劇団

 <p>Gフランケン 【札幌】</p> <p>ドッキリ・タイムズ 作・演出：こさへ あきひろ</p> <p>芸人のサザナミは後輩芸人とインタビューを受けている。サザナミは去年108回もドッキリにかけられたらしい。インタビューを終えて喫茶店を出ると、サザナミのもとに色々な災難が降りかかる。ふとサザナミはインタビューで出てきた話題が現実になっていることに気づく——。さあ、楽しい「ショウ」の始まりだ。</p>	 <p>宇宙空地 【名古屋】</p> <p>ショウアワセルフ 作・演出：関戸 哲也</p> <p>夫婦が椅子に座っている。イライラし始める男が女が諭す「これから私たちのショウが始まるの」。男と女それぞれが生まれてから成長し、出会い、そしてその後の人生が、ハイスピードで展開する。気づいた頃にはもうショウは終わりにさしかかり…7本のスポットライトで見せるショウと言うにはあまりに慎ましやかな人生。</p>	 <p>マイペース 【札幌】</p> <p>ラスト・ショウ 作・演出：八十嶋 悠介</p> <p>芸歴16年目のお笑いコンビ「どさんこキング」の若村と春田は、才能の限界を認めつつあった。出番前の楽屋。春田が解散を告げる。戸惑う若村。出離子が鳴る。得意とするシチュエーションコント漫才が始まる。なにがなんだかわからないけどこれはたぶん、最後の舞台。</p>	 <p>Mike堂 【金沢】</p> <p>おそらく地球は消滅します。 作・演出：工藤 舞</p> <p>20XX年、地球に小惑星が接近していた。調査の結果、99.9%の確率で、地球に直撃すると予測された。その結果、おそらく地球は消滅する。一人の男は考えた。「最期くらい、本能の赴くまま生きてみたい。」男の考える本能、それは裸だった。裸の男は、一人の女と出会う。二人は最期の会話を交わしながら、人間としての生死について考える。</p>
---	---	---	---

「短編演劇祭2019」の前夜祭イベント! 様々な企画を開催予定!


短編演劇祭2019
プレイベント開催決定!!

8月30日【金】 【会場】札幌市教育文化会館 大ホール

プレイベントの詳細情報については「教文演フェス2019」特設サイトで随時更新いたしますので、お見逃しなく!

入場無料

教文演フェス2019 検索



スマホからはこちら

開かれる幽玄の世界 「能楽展示」

業 告 事 報
 「日時」 7月12日(金)～15日(月・祝)
 「会場」 SCARTS スタジオ
 (札幌市民交流プラザ 2F)
 (札幌市民交流プラザ 2F)

札幌市教育文化会館初の試みとなった、館外での能楽展示。本展示は札幌市図書・情報館、札幌文化芸術交流センターSCARTSとの連携により開催されました。能の解説をじつと眺める高校生、謡本を読み比べる初老の男性、能の写真集をめくりながら話し込む女性グループなど、幅広い年齢層のお客さんが絶え間なく訪れ、当初の目標を大きく上回り、4日間で1350名の動員を記録するなど、大盛況のうちに終了しました。本展で目指したのは、「能楽に興味のなかった人でも面白くと思えるような構成」。例えば、能面は、台座での実物展示に加え、2対の能面がまるで宙に浮いているかのように見える展示、スクリーンに投影された能面の連なりがゆっくりと動く映像展示など、新しい見せ方にトライ。お客さんも「怖い！」と笑いながら写真を撮り合うなど、普段身近で見ることのない能面を楽しんでいた様子。SNSでもたくさん感想をつぶやいていただき、手応えを感じる展示となりました。ちなみに本展は、9月4日に開催される能楽公演「能楽なう」のブレイイベントとして開催。展示に興味を持ってくれた人が気軽に公演へ足を運べるよう、「ちょっと立ち寄り席」(なんと1000円!)も用意しています。実は、能楽師さんからも「一回見てもらうことが大事」という言葉をよく聞きます。なぜかと言うと、「今はピンとこなかったとしても、見たことがあるという経験があると、年齢を重ねた後にもっと日本の伝統を知りたいと思える瞬間がきつと訪れるから」。今回の試みがその第一歩につながることを願いつつ、お客さんからは「能面や楽器の細部を見ることができて良かったです。能公演を見ると、この展示を思い出しながら楽しめそう」という嬉しい声も。皆さんもこれを機に、「能楽なう」へちょっと立ち寄ってみませんか？



和文文化巡り

第2回 | 玉翠園

伝統芸能とともに日本の文化の魅力を気軽に体感してもらう「和文文化プロジェクト」。
 連載第2回目は、1933年創業の日本茶専門店、玉翠園をご紹介します。



北の日本茶専門店
玉翠園(ぎよくすいえん)
 札幌市中央区南1条東1丁目1
 tel.011-231-1500
 営業時間 / 8:00～18:00(月～金)
 8:00～16:00(土)
<http://www.gyokusuien.co.jp>

ライフスタイルに合う 日本茶と出会う場所

全国から仕入れた良質のお茶がずらりと並ぶ棚の横で、試飲しながら日本茶インストラクターの解説を熱心に聞く外国人観光客。スーツ姿の男性が立ち寄ってお茶を一杯飲んで行き、ベンチには完熟抹茶をたっぷり練りこんだ抹茶アイスを添えたオリジナルパフェを満喫するお客さん。日本茶専門店玉翠園のいつもの風景です。「その人のライフスタイルに合う日本茶と巡り合う機会を提供できれば」と話すのは、代表取締役の玉木康雄さん。味の好みにとどまらず、「パソコン仕事が多い」「野菜をあまり食べていない」などの会話をヒントにお茶を選び、成分や効能、美味しく淹れるコツを丁寧に解説してくれまます。「伝統芸能の紹介に力を入れる教文との共通点は？」という問いには、「古の良きものをきちんと残して、新しい時代に伝えたい」という強い意志と玉木さん。実は、北海道はお茶どころでない故に、全国のお茶が集まるという利点があります。各産地の上級煎茶を定山溪豊平峡ダムトンネルで熟成した玉翠園オリジナル「水の守人ブレンド」は、この地でしか生まれない日本茶の魅力が結集した一品。こちらもぜひ試してみてください！



1)和楽器、ピアノ、ドラムなどがミックスされたBGMが、会場の雰囲気を盛り上げてくれました。 2)スクリーンを3枚重ねて投影することにより、不思議な視覚効果が、3)能面は札幌能楽会の皆さんに選んでいただきました。 4)能・狂言に出演する演者は扇を必ず携えます。 5)能では台本全てを謡によって記譜法が異なります。6)能楽師が面の角度で表情を変え、その雰囲気を照明で表現。 7)「装束」で使用される泥眼(でいがん)と般若の面、実際の人間の顔の高さで、能楽師と向き合っているような雰囲気を演出。8)書籍は札幌市図書・情報館の皆さんに選んでいただきました。 9)actデジタルアーカイブは熱心に読んでいくお客さんが多数、会場内ではこれまでのactをまとめた冊子も配布。10)インパクトある外観のせいか、来場者の多くを「能楽を見たことがない人」が占めました。